

# 外国人介護福祉士候補者の 【国試対策情報】

月報 第14号

## 【教育効果がない日本語学校(日本語教師)の裏づけ】

弊社では、亜細亜大学（東京都）の日本語学校出身者を中心とした留学生に対して、「日本語能力試験」を実施致しました。留学生受験者の構成は下表の合計 69 名でした。

A群は母国から直接留学した者で、国内の日本語学校出身者ではありません。

B群は来日して2年間の日本語学校での教育を受け、さらに、亜細亜大学の留学生特別別科で、1年間の日本語教育を受けた者でした。彼らは、合計3年間の日本語教育を受けたことになります。

C群は来日して、日本での生活やアルバイトなどを続けながら、2年間の日本語教育を日本語学校で受けて、亜細亜大学に入学した受験者です。

【受験者の構成と日本語教育歴】

|          |     |
|----------|-----|
| A、母国より入学 | 1名  |
| B、留学生別科卒 | 21名 |
| C、日本語学校卒 | 47名 |
| 合計       | 69名 |

### I、【留学生の日本語能力到達度結果】

試験問題は、弊社が行っている【国家試験受験能力到達度試験】の「初回レベルチェック」に準じたものでした。このレベルは、日本人の小学校5～6年生の言語レベルで作成されたものです。試験時間は60分間で、45問の問題に解答させる内容のものでした。

- 試験結果は右表の通りで、全体平均到達度は44%にしか過ぎず、この言語能力は、小学校3年生レベルでした。

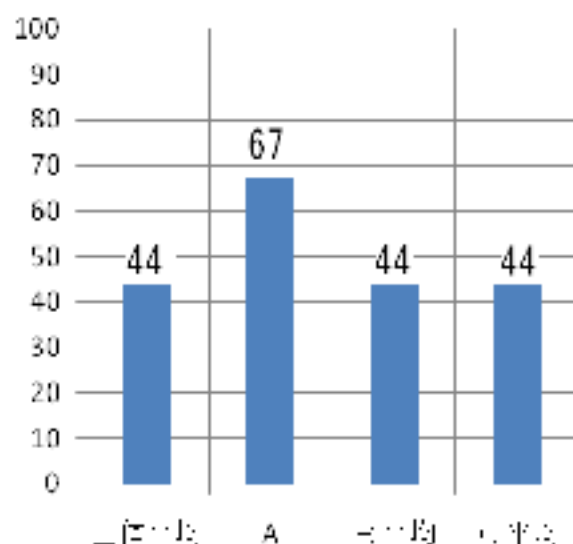
この結果、大学生でありながら、小学校3年生が大学の授業を受ける状態が生じました。当然のことながら、小学校3年生の言語能力では、大学の講義は受けても全く理解できないこととなります。

さらに、B群とC群は、教育を受けた留学生です。日本語学校での「教育の質」がいかに粗末であるかが、表面化しました。

- また、B群は日本語学校を経て、大学の留学生のために設けられた「特別別科」で1年間の日本語教育を受けた者であるにも関わらず、C群の到達度44%と同レベルであることは、

客観的に観ても大学での日本語教育は、意味の無い教育であったことが明白となりました。この結果を大学当局が観て、大きな衝撃を受け、「従来の留学生もほぼ同様の傾向であったことと、留学生が日本での就職が困難である理由の一つとして、【日本語力の不足】が大きな原因である」と嘆いた言葉がとても印象的なものでした。（原因究明と詳細は、次の頁に続く）

日本語能力到達度



## Ⅱ、【項目別分析】

### A、＜文字について＞

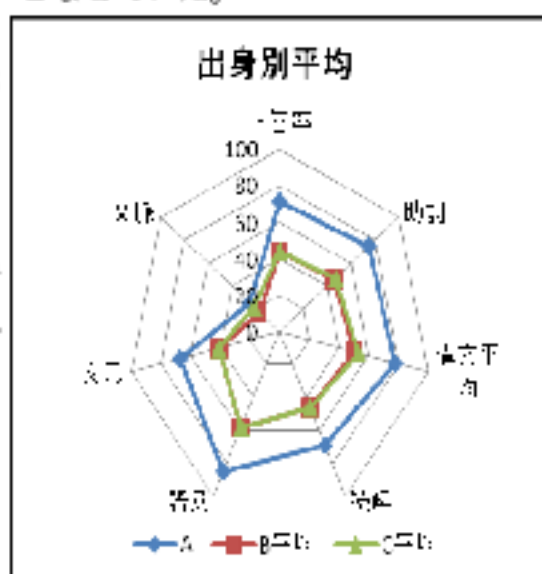
- 1、非常に驚いたことは、平仮名文字について、C群・B群ともに多くの間違いが生じている。
- 2、漢字に対しても、多くの間違いがあった。 B群では21名中14名、C群では47名中35名が漢字の間違いが認められ、そのほとんどが中国人であった。
- 3、漢字圏である中国人が中心にも関わらず、このような結果が生じる原因は、中国人であるが故に、「日本語の漢字」の指導を怠っているためであり、これは日本語教育を行う者の責任とも言える結果を表している。

### B、＜文体について＞

- 1、ほとんどの受験者は「統一された文体」の用法が無知であった。 これはC群よりB群の日本語教育の結果が表されている。
- 2、B群は21名中1名を除いて、全員が文体の用法に対する認識並びに知識がないことが判明した。 C群は47名中2名のみ正しい文体を使いこなせていた。

### C、＜助詞について＞

- 1、B群では、助詞の用法を全く理解できない留学生が1名いる。 しかし、全体で見ると助詞の用法の合格率は、65%であるため、65%以上は21名中1名しかいない。
- 2、日本語能力を見るとき、助詞の正しい使い分けができるか否かによって、その意思伝達が適切に行われるか否かを表すことは常識の範囲である。 しかしながら、B群は46%、C群は47%という平均到達度では、合格基準の65%からみた場合、その差は11～12%と大きく下回っている。



### D、＜構文について＞

構文評価では、日本文としての文構造を保っているが、質問文の意図に対して答えるのではなく、説明文の該当箇所をそのまま抜き出して解答文として用いている傾向が非常に多く見られた。 このことは、日本文に内包されている「語感教育」がほとんどなされていないことを表している。

即ち、パターン教育の結果、学んだパターンの範囲でしか答えられない言語力であることが判明した。 この特徴は、日本人間におけるコミュニケーションや職域における文書・文章作成能力が欠落していることを表している。

### E、＜語彙について＞

ほとんどの受験生が暗記法により日本語学習を行ってきたので、語彙に対しての到達度は比較的高い。 しかし、本来語彙力があれば構文力も同等か、それ以上であるべき項目であるのに、構文力は語彙力より6%も下回っており、「知っているが使えない」レベルにとどまっていることがうかがえる。

### F、＜読解能力について＞

大学生活で重要な専門書の読解能力を考慮すると、C群及びB群ともに40%台であり、専門領域の書物を読みこなし、自分の専門課程を学習していく能力が不十分であることも判明した。  
(今後の対応方法については次の頁に)

### Ⅲ、【日本語教師資格は国家資格ではない！！】

留学生の「日本語能力到達度結果」を見ても分かる通り、日本語学校あるいは、「自称日本語教師」と称する者の教育効果は、いかに低いものであるかが明白となりました。

その理由は、日本語教師は国が定めた一定の知識や、技能を持ち合わせた者ではなく、あくまでも日本語教育を行う人が、「私は日本語教師です」と言えば、現在の日本社会では日本語教師としてまかり通っているのが実態です。これを我々は「自称日本語教師」と言っています。

#### 1、「自称日本語教師の実態について」

- その実態をもう少し詳しく見ると、まず、民間団体が行っている、日本語教育能力検定試験に合格した者と、大学機関等で420時間を修了した者が「有資格者」として見なされています。しかし、日本語教育能力検定試験は、あくまでも【教師の資質や能力】を見るものではなく、国語の知識を中心としたものを「外国人に日本語を教える知識」として、位置づけた内容が中心となっているために、【実践的な外国語としての日本語教育に関する知識】は、ほとんど問題視されることがなく、ただ単に、検定試験に合格した者を日本語教師として見なしています。

さらに、外国人に対しての日本語教育の経験もほとんど無いままに、日本語教師と称して日本語学校やその他の団体にパート仕事として、日本語教育を行っているのがほとんどです。

- また、420時間修了者は大学機関等で、国語の知識を中心とした教育を420時間学んだ者に対して、無試験で習得できる資格です。しかし、420時間習得者は、当然のことながら、外国人に対しての教育実践はほとんどなく、ただ知識のみを習得した者にしか過ぎません。日本語教育能力検定試験合格者と420時間習得者は、共に外国人教育に必要な【実践教授法】を身につけていないために、教育現場に出た段階では、専ら「言葉の説明に徹する」教育スタイルを取ることが、一つの特徴となっています。

#### 2、「プロの日本語教師とは」

- 介護・看護の国家試験制度は、病院や施設に入り、技術を身につけた上で試験を受けますが、日本語教師の場合は、プロではないということを知っておく必要があります。日本語教師のプロとは、【日本語の規則性や用法、そして、運用や活用法を教えることができる人】であり、【実践教授法を身につけた人】のことを言います。
  - この視点から言うと、一般の教師は「言葉の説明」をしているにしか過ぎません。介護・看護の受験生は、このような「自称日本語教師」の指導を受けても、受験能力すら養うことができません。多くの関係者はすでに、日本語学校や日本語教師の実力の無さを、今年3月に行われた合格発表の結果を見て、肌身で感じて知っていることでしょう。
  - プロの日本語教師はあくまでも、【言葉の説明をするのではなく、受験者の自学能力を養う】ことを目的とした教育を行います。その結果、「受験生に自分から積極的に日本語力を身につけさせて、国家試験受験能力を日頃から養える」ように、そして、「国家試験に対する姿勢を変化させること」が、プロの日本語教師と言えます。
- このようなプロの日本語教師に対して、受験生の日本語教育を任せることが、無駄な経費を使うことなく、外国人受け入れの目的を達成することができる、最善の方法です。

#### 3、「確実に国家試験合格をさせるためには」

- 仮に、国家試験が1年先や1年半先であっても、それまでの期間に具体的な学習計画で「国家試験受験能力を養う」ことが重要です。そのためには、常に、受験生の言語到達度を客観視できる方法が絶対に必要となります。そして、「国家試験合格」を目指すことです。
- 教育の結果は、全て「国家試験合格」ができるか否かで判明しますので、それを基に「教育の質」と「日本語教師の質」を判断することが重要なことです。

## 施設の驚きの声

### 日本語学校では効果がなかった！！

日本語学校に高い授業料を払って一年近くも指導を任せていたが、基本的な日本語力も身につかず終わってしまった。職員が国家試験過去問題を使ってチェックをしたところ、ほとんど勘で解いていたことが分かってビックリした。今では、日本語学校に高い授業料と一年間近くの時間を費やしたことに非常に後悔している。今後は日本語学校は信用できないので、施設内で対応しようと考えている。次回も二名受け入れ予定なので、月報を参考に試験制度の参加も考えたい。

(山梨県・F施設)

### 「10分間テスト」で受験者の実力を見てビックリした・・・！！

日本語学校に通いながら日本語を学び、施設内では職員が受験対策の指導をしている。日本語学校に通学させていたので、日本語力は十分にあり、能力も高いと思っていた。しかし、「10分間テスト」を受けて、あまりにも出来が悪かったのには愕然とした。こんなことでは、国家試験の受験能力すらないので、どうして良いのか困惑している。今までの日本語学校に費やしたお金と時間は全く無駄だった。授業料と軽費を考えると何だったのか反省している。

(新潟県・K施設)

### 日本語学校の「教育効果」は信用しない・・・！！

施設の関係者の集まりで日本語学校の教育は効果がないことを耳にしていたが、当施設の受験者も同様で通学させたが効果がなかった。その結果、施設内で教育することに方針を変えて行っているが、具体的な国家試験に向けての指導方法も分からず困惑している。次回からの受け入れは、もう日本語学校は信用できないので、指導職員の体制から立て直しを考えて、対応することにした。専門的な教育の指導法については、御社に相談したいと考えている。

(神奈川県・K施設)

### 派遣教師では合格は難しい・・・！！

日本語学校からの教師に指導をしてもらってはいるが、効果が全然出ていないのが現状。本人たちには頑張って学習を続けていて、専門学校等のあらゆる模擬試験は受けている。しかしながら、思うようなレベルに到達できていない。これだけ行っても、事業団の模擬試験でも下位のほうなので、合格は難しいだろうと思っている。

(東京都・T施設)

### 手遅れになる前に・・・施設職員の皆様方へ

「これでよし！」とせず、もう一度、施設内での指導や「教育効果」を見直してみてもいかがですか？

★「日本語教師がいるから大丈夫」「日本語学校に通学しているから今のところは順調」「事業団の試験では成績が良い」という声をまだまだ耳にします。

★何を根拠に「大丈夫」とお考えですか？「10分間テスト」を受けてみて初めて「受験者の本来の能力が分かった」「日本語力の定着度合の低さに驚いた」という声をいただいています。

★無料で「テスト」と「教育相談」をしながら「真の教育とはどのようなことなのか」を個別にアドバイスをしています。まだ、受けたことのない受験者への受験をお勧め致します。

### 日本語教師が指導しているのに、なぜ、効果が出ない？・・・！！

日本語学校から派遣教師を受入れている。そして、職員も指導をしているが、残念ながら教育効果が一向に上がっていない。

そのため、派遣教師に対する信頼は失ってしまった。今後は合格するための具体的な方法を再検討しなくてはならないと思っている。

なぜ日本語学校の教師は教育効果が上がらないのか、よその施設はどうなのか知りたい。

(山梨県・K施設)

注目！！ 2014年、15年度「国家試験受験者」対象 <10分間テスト（無料）> 実施中

◎ 受験者の「受験能力」はどの程度あるのか？ ◎ 日頃の指導がどれだけ身につけているのか？

疑問をもったことはありませんか。確実に「合格」を目指すのなら、受験者の「会話力」だけで判断せず、読解力を養って下さい。そのためには、プロの診断を受けることが最も大切なことです。

★★ 「8つの言語技能」に分けて細かく分析し、考察を返却後、「教育相談」も実施しています。

## 【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

※ 【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年 3 月に発表された外国人介護福祉士国家試験合格者発表で明確に立証されました。 その内容では、受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名（52.7%）が、この受験能力到達度試験を受けた受験者でした。

※ 本試験は、国家試験に対する受験テクニックや言葉の暗記を重視したものではなく、あくまでも専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。

| レベル | 合格基準                      | 特徴                                                                         | 技能の種類                                    | 合格<br>職業言語能力を養う |
|-----|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------|
| 3段階 | 75 %<br>専門学校卒の<br>言語能力    | ※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う<br>◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」<br>に対応できる学習をさせる。            | ★ 5 技能<br>・ 瞬時反応<br>・ 文脈読解力<br>・ 要約力など   |                 |
| 2段階 | 90 %<br>専門学校 2 年<br>の言語能力 | ※ 専門知識の活用力を養う<br>◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字<br>熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を<br>させる。    | ★ 4 技能<br>・ 瞬時反応<br>・ 漢字熟語力<br>・ 文脈読解など  |                 |
| 1段階 | 90 %<br>専門学校 1 年<br>の言語能力 | ※ 専門知識の運用力を養う<br>◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」<br>（語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。           | ★ 3 技能<br>・ 瞬時反応力<br>・ 文意読解など            |                 |
| F段階 | 85 %<br>高校 3 年の<br>言語能力   | ※ 専門領域の基礎力を養う<br>◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で<br>学習させる。                          | ★ 4 技能<br>・ 瞬時反応力<br>・ 文意読解など            |                 |
| E段階 | 80 %<br>高校 1 年の<br>言語能力   | ※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う<br>◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった<br>運用力が身につく学習をさせる。          | ★ 9 技能<br>・ 文読解力<br>・ 図読解力など             | 生活言語能力を養う       |
| D段階 | 75 %<br>中学校 2 年の<br>言語能力  | ◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった<br>自学力が身につく学習をさせる。                                    | ★ 11 技能<br>・ 対応力<br>・ 要約力など              |                 |
| C段階 | 70 %<br>小学校 6 年の<br>言語能力  | ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった<br>自学力が身につく学習をさせる。                                   | ★ 11 技能<br>・ 瞬時反応力<br>・ 文脈力 など           |                 |
| B段階 | 70%<br>小学校 4 年の<br>言語能力   | ※ 日本語の基礎知識を養う<br>◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な<br>知識とその使い分け」ができる能力を中心<br>として学習させる。 | ★ 11 技能<br>・ 瞬時反応力<br>・ 読解力など            | 基礎言語能力を養う       |
| A段階 | 75 %<br>小学校 3 年の<br>言語能力  | ・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・<br>漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。                              | ★ 13 技能<br>・ 瞬時反応力<br>・ 文字認知力<br>・ 読解力など |                 |
| 初回  | 75 %                      | 受験者の現状の日本語能力を観る。                                                           |                                          |                 |

## 【国家試験受験能力到達度試験】ご参加のおすすめ

【国家試験受験能力到達度試験】は、外国人国家試験受験者を対象とした【言語能力】を段階的に判定できる試験です。第一段階では＜基礎言語能力＞を観る初回レベル～Dレベルまでで、第二段階では＜国家試験受験能力＞を観るEレベルとFレベルです。そして、第三段階では＜国家試験合格能力＞を観る国試1レベル～3レベルの三部構成で実施しています。

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。  
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。  
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。  
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】チェックと【教材】申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>

|                                                                                                        |        |       |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|---|
| 施設名：                                                                                                   | ご担当者名： |       |   |
| 所在地：〒                                                                                                  |        |       |   |
| 電話：                                                                                                    | FAX：   |       |   |
| メールアドレス：                                                                                               |        |       |   |
| 受験者名：                                                                                                  | 国名：    | 受験人数： | 名 |
| <b>&lt;単発受験&gt;</b> ※ ご希望の受験形態に□「レ点」を記入願います。下記の料金は受験者1名あたりの金額です。<br>※ 各受験段階で1回あたり @15,000 円 × 名 合計金額 円 |        |       |   |
| <b>&lt;継続受験&gt;</b><br>□ 初回から全10回（教材費込み） 140,030 円 × 名 合計金額 円                                          |        |       |   |

★ 教材のおすすめ 受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。  
特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

|                                                                               |            |           |  |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------|--|
| ※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。                                                   |            |           |  |
| 100万人の日本語No.1（ ）                                                              | ひらがなかーど（ ） | 漢字の一と1（ ） |  |
| 100万人の日本語No.2（ ）                                                              | ひらがなの一と（ ） | 漢字の一と2（ ） |  |
| 100万人の日本語No.3（ ）                                                              | カタカナノート（ ） |           |  |
| お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。 |            |           |  |
| ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田 3-2-13 石田ビル 303                                      |            |           |  |
| 電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba__ken@yahoo.co.jp                  |            |           |  |

## 《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】 ③ 漢字も頻りに読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性とその用法」が学べ、自在に会話力がつくような内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字  
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□  
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。  
非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。  
また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□  
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発音方法が学べます。  
身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【ひらがなカード】

□  
表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。  
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。  
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

## 【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□  
会社や学校、家庭内など場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な語彙を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。  
さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え方」を意志表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字  
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□  
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文章に対する読解力も、同時に養えるように作られています。  
漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。  
非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

### 【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。  
レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□  
カタカナ語を使った場面を教えるイラストが各ページにあります。  
このノートは、説明文と会話文が繰り返し使われて作られています。  
場面を紹介する文は、外国語の理解と、その習得練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

## 【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□  
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。  
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,200字  
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

### 【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。  
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

| 学習段階    | 教材一覧            | 価格     |
|---------|-----------------|--------|
| レベルⅠ    | 「ひらがなカード」       | ¥1,050 |
|         | 「100万人の日本語No.1」 | ¥2,550 |
|         | 「ひらがなのーと」       | ¥1,800 |
|         | 「漢字のーと1」        | ¥1,360 |
| レベルⅡ    | 「100万人の日本語No.2」 | ¥2,550 |
|         | 「カタカナノート」       | ¥1,360 |
| レベルⅢ    | 「漢字のーと2」        | ¥1,360 |
|         | 「100万人の日本語No.3」 | ¥3,000 |
| ※ 送料は別途 |                 |        |